

(第一紙) T12p189b06

1 仏遺日摩尼宝經一卷² 後漢光和年支讖於洛陽³訳

2 仏在舍衛國祇洹阿難⁴阿藍時与摩訶

3 比丘僧千二百五十人菩薩万二千人爾時

4 仏語摩訶迦葉比丘言菩薩有四事法智慧

5 為滅何等為四事一者不敬經不敬師二者

6 人有欲聞經者中斷之三者人有求深經者

7 愛惜不肯与四者自貢高輕侮他人是為四

8 菩薩復有四事法智慧為增何等為四一

9 者恭敬經尊師二者人有來聽經者不中

10 斷三者人有欲得深經者不愛藏四者具足

11 為人説經不從人有所微冀常自精進常隨法

12 行不誹⁵説是為四菩薩有四事世世忘⁶菩薩

13 道意何等為四一者欺調其師二者主持他人

14 長短人無長短誹謗之三者壞敗菩薩道四

15 者罵詈為菩薩道者是為四菩薩有四事

16 世世所生念菩薩道不忘及自致至仏何謂四

17 事一者不欺師盡其形寿不兩舌諛訛二者

18 盡形寿不兩舌形笑他人三者慈心於人不

19 念人惡四者視諸菩薩如見仏及初發意無

20 異是為四菩薩有四事法中道斷絶為菩薩

21 日滅何謂為四一者自貢高学外道二者

22 独欲自供養不欲令他人得三者及⁷自憎菩薩

23 還自相謗四者人有來常所聞經妄止令斷

(第二紙) T12p189c01

1 絶是為四菩薩有四事求經道及有所求索

2 不中斷何謂四事但求索好經法六波羅蜜

3 及菩薩毘羅經及仏諸品去瞋恚之心敬事

4 十方天下人如奴事大夫樂於經不為外道

5 自蓋⁸身也自守不説人惡及讒⁹倭¹⁰於人所不

1 〔説〕+【大】 大正蔵に校注なし。

2 〔一卷〕-【大】 大正蔵に校注なし。

3 光和年支讖於洛陽 月支国三蔵支婁迦讖【大】 大正蔵に校注なし。

4 釋 毘 羅 經【大】 大正蔵に校注なし。

5 誹 訛【大】 大正蔵に校注なし。

6 忘 亡【大】 大正蔵に校注なし。

7 及 反【大】 大正蔵に校注なし。「及」の中央に見せ消ち(朱点)あり、右傍に「反」(朱書)あり。

- 6 聞經不限仏智也隨其所喜經者各自聞得
- 7 是為四菩薩有四事心不委曲当遠離何謂
- 8 為四一者由^レ豫於仏法二者自貢高瞋恚頑
- 9 很用加於人三者貪嫉諛訛四者說菩薩短
- 10 是為四菩薩有四事直行至誠何謂為四一
- 11 者自有過惡不覆藏自悔欲除其罪二者実
- 12 謂^三亡命亡国亡財不兩舌二者設有災變妄
- 13 起至罵詈數數輕易及搥捶閉着牢獄設有
- 14 是当自悔前世惡所致四者無恨無瞋恚^悉_レ
- 15 自信是為四菩薩有四事難調也何謂四事
- 16 一者学經自用不随師法二者所受教不用
- 17 也不慈孝於師三者受比丘僧所信句妄与
- 18 他人四者不敬於成就菩薩是為四菩薩有
- 19 四事易調也何謂為四一者所聞經法随教
- 20 不過所聞者但聞取法不取嚴飾二者当恭
- 21 敬於師無諛諂三者食知足持戒三昧如法
- 22 四者見成就菩薩持善心向心口身亦爾亦
- 23 欲及其功德是為四菩薩有四事得其過何
- 24 謂四事一者本不相習不当妄信二者仏有
- 25 深法不当妄教人是為大過三者人有喜菩

(第二紙) T12p189c26~

- 1 薩道者反教人羅漢道是為大過四者於比
- 2 丘僧中布施心不等与者是為大過是為四
- 3 菩薩有四事得菩薩道何謂四事一者等心
- 4 於十方人二者布施等心於十方人三者所
- 5 作為等心於十方人四者說經等心於十方
- 6 人是為四菩薩有四事矯稱為菩薩何謂四
- 7 事一者依經得生活二者俱¹³欲声名不索
- 8 仏道三者但欲自安不念苦人四者但口多說不
- 9 欲度余人是為四菩薩有四事成其功德何

8 蓋^レ益【大】
 9 倭^レ溺【大】
 10 由^レ猶【大】
 11 謂^レ諱【大】
 12 〔悉〕一【大】
 13 俱^レ但【大】 大正藏に校注なし。「俱」の中央に見せ消ち(朱点)あり、右傍に「但」(朱書)あり。

- 10 謂四事一者信虛空二者所作惡信当悔三
- 11 者心念万物皆非我所四者極大慈於十方
- 12 人是為四菩薩有四惡知識何謂四一者教
- 13 人為羅漢道滅意二者教人為辟支仏道
- 14 自守無為三者喜教人為教道四者人來¹⁴有
- 15 学經者持財物誘恤不肯教人是為四菩薩
- 16 有四善知識何等為四一者人所求索不逆
- 17 也用是故成仏道二者經師是為善知識多
- 18 聞經故三者勸樂使人發意求仏成於功德
- 19 四者仏中天是善知識具足諸仏法故是為
- 20 四菩薩有四珍宝何謂為四一者見仏已悉
- 21 供養無二意二者六波羅蜜法悉聞三者常
- 22 淨心向師四者止於愛欲常止空閑処是為
- 23 四菩薩有四事出於魔界何謂為四一者不
- 24 捨菩薩心二者無有瞋恚心向於十方人大
- 25 如毛髮三者悉学外余道四者恭敬於諸

(第四紙) T12p190a22~

- 1 菩薩是為四菩薩有四事得功德不可復計
- 2 何謂為四一者持法施与人不希望欲有所
- 3 得二者人有犯戒者当慈哀之三者多教
- 4 人為菩薩道四者有下賤人來毀辱菩薩悉
- 5 当忍之是為四
- 6 仏語迦葉言不用字為字菩薩也随法行随
- 7 法立用是故字菩薩菩薩凡有卅¹⁵二事何謂
- 8 卅¹⁶二事安隱慈心於人自念智慮少去自用
- 9 不高自畜¹⁷堅住不動還所与親厚及¹⁸至般泥
- 10 洄善知識惡知識等心無有異所作為不懈
- 11 怠常和腸¹⁹向於十方人不中断等心悉遍至
- 12 不断慈心索諸經法不忘於經法中無有飽
- 13 時所有惡不覆藏皆發露他人有短不念其

¹⁴ 来¹⁴求【大】

¹⁵ 卅¹⁵三十【大】 大正蔵に校注なし。

¹⁶ 卅¹⁶三十【大】 大正蔵に校注なし。

¹⁷ 畜¹⁷儲【大】

¹⁸ 及¹⁸乃【大】 大正蔵に校注なし。

¹⁹ 腸¹⁹暢【大】

- 14 短惡諸福功德悉究竟索所施与但發心索
- 15 仏耳一切不索有所生心向十方人不適有
- 16 所憎無思想之禪不願於其中也漚28和29拘捨30
- 17 羅護於智慧四事雜布施不樂於外事不喜
- 18 於小道心喜於大道離於惡知識習善知識
- 19 以五句31自娛樂譬如月初生時稍稍增益於
- 20 智慧稍稍如是不墮非法所語無異所說諦
- 21 者恭敬
- 22 仏言如是迦葉32二事是故名爲菩薩仏言
- 23 迦葉譬如地一切人隨其所種其地亦不置
- 24 人也如是發意菩薩自致乃成仏饒益十方
- 25 人亦適無所置也迦葉譬如春夏温煖所種

(第五紙) T12p190b18~

- 1 成熟菩薩智慧成熟十方人功德如是譬如
- 2 水百穀草木皆因水茂盛菩薩如是發心諸
- 3 經法悉從中生譬如風悉成諸仏国土菩薩
- 4 如是漚24和24拘舍羅悉成諸仏經譬如日無所
- 5 不照天下人25皆見其明菩薩如是智慧光明
- 6 悉照十方人經道之明譬如月初生時日日
- 7 增益菩薩如是精進具足於功德譬如師子
- 8 独行独歩無所畏菩薩如是被戒德之鎧独
- 9 行独歩無所畏譬如草木雖無上枝下根由
- 10 復生菩薩如是雖斷三処極大慈統見世間
- 11 譬如万川四流皆歸於海合爲一味菩薩如
- 12 是持若干種行合会功德持用成願一味入
- 13 薩芸若中譬如須弥山忉利住其上菩薩如
- 14 是發心成薩芸若譬如樹蔭却26兩26菩薩如是
- 15 持極大慈雨於經道譬如国王得傍臣共治
- 16 則好漚27和27拘舍羅如是菩薩所作爲如仏譬

²⁰ 和20想20【大】 大正蔵の校注には「想20和20」*とある。

²¹ 捨21舍21【大】

²² 句22句22【大】

²³ 卅23三十23【大】

²⁴ 和24想24【大】

²⁵ 人25【大】

²⁶ 兩26雨26【大】

²⁷ 和27想27【大】

大正蔵に校注なし。「兩」の中央に見せ消ち(朱点)あり、右傍に「雨」(朱書)あり。

- 17 如天重欲索雨不能得也菩薩如是不学經
 18 道豫知不高明也譬如遮迦越羅³²之所処自
 19 然後七宝自然来生菩薩如是初生薩芸若
 20 意然後自然生^卅七品經譬如更治摩尼珠
 21 其價增倍多所饒益師成一人為菩薩道衆
 22 阿羅漢辟支仏皆依用得度譬如毒藥在人
 23 手中不害傷人菩薩雖在愛欲中持智慧不
 24 入惡道譬如^群国多積糞壤有益稻田菜園
 25 菩薩雖在愛欲中益於天上天下仏語迦葉

(第六紙) T12p190c14~

- 1 若有菩薩欲学極大珍宝之積遺日羅經当
 2 随是經本法精進何等為本法無法無我無
 3 人無寿無常無色無痛痒無思想無生死識
 4 是為法本根有常在一辺無常在一辺有
 5 常無常適在其中無色無見無識是故為中之
 6 智慧³¹一本也譬如大地為一界復一仏界³³界
 7 之際中無色無見無識無我無識無所入無
 8 所語是為智點本也心為一辺無心為^二二³³辺
 9 設無心無識無我無識是為中間之本諸仏
 10 經法等無有異有徳無徳内事外事有世間
 11 無世間為度者未度者脱愛欲未脱愛欲
 12 泥洹等無有異有在一辺無有在一辺有無有
 13 適在中間是為智點中本也仏語迦葉我為
 14 汝曹説法從生至死身所出生苦癡在一辺
 15 點在一辺無癡無點適在中間是為智點中
 16 間之本
 17 仏語迦葉空不作法法本無空無相不作法
 18 法本無相無願不作法法本無願無死生不
 19 作法法本無死生³⁴無出³⁵無生無滅無処所無

²⁸ 【王】 + 【大】

²⁹ 卅 || 三十 【大】 大正蔵に校注なし。

³⁰ 群 || 郡 【大】 大正蔵に校注なし。「群」の中央に見せ消ち(朱点)あり、右傍に「郡」(朱書)あり。

³¹ 慧 || 點 【大】 大正蔵に校注なし。「慧」の中央に見せ消ち(朱点)あり、右傍に「點」(朱書)あり。

³² 雨 || 兩 【大】 「雨」の右傍に「兩」(朱書)あり。

³³ 二 || 一 【大】

³⁴ 【死生】 + 【大】

³⁵ 【無】 - 【大】

20 形不作法法本無形当随是本法是為中間
 21 視本法不自分別解身為空也空棄空中之
 22 空本自空甫当來空現在空仏語迦葉人寧
 23 着癡大如須弥山呼為有其過不足言耳人

(第七紙) T12p191a08~

1 有着空言有空其過甚大若有着癡者曉空
 2 得脱着空者不得脱
 3 仏語迦葉言譬如人病得良医与菓葉入腹
 4 中不行於迦葉意云何是人能愈不迦葉報
 5 言大難仏言外余道曉空得脱着空不得脱
 6 譬如人畏於虛空啼哭教人却去虛空仏語
 7 迦葉是人寧却虛空不迦葉言不可却也仏
 8 言如是迦葉若沙門婆羅門畏於虛空其人
 9 亦空語復畏空是人為狂無有異仏語迦葉
 10 言譬如画師自画鬼神像還自復恐怖譬如
 11 人未得道者如是色声香味坐是墮死生中
 12 不曉法譬如木中火出還自燒木從觀得點
 13 自燒身譬如幻師化作人還自取幻師噉如是
 14 色声香味对從中出念噉空噉無他奇仏
 15 語迦葉譬如燈炷之明不自念言我当逐冥
 16 去冥也燈然³⁶炷照不知冥所去処如是智點不
 17 念我当去愚癡得智點不知愚癡所去処也
 18 是智點無所從來亦無有持來者是燈炷
 19 明是真空不可得持也是智點是癡雨³⁷者俱
 20 空無所持也譬如大舍小舍百歳若千歳未
 21 嘗於其中然燈火也却後各於中然燈仏語³⁸
 22 迦葉於迦葉意云何是冥在中千歳若我
 23 豪強不出迦葉白仏言不也冥雖久在中見火
 24 明不敢当即去仏言如是迦葉菩薩数千巨
 25 億万劫在愛欲中為罪³⁹所覆聞仏經一反念

(第八紙) T12p191b03~

³⁶ 燈然 || 然燈 【大】

³⁷ 雨 || 雨 【大】 大正蔵に校注なし。「雨」の右傍に「兩」(朱書)あり。

³⁸ 仏語 || 火 【大】

³⁹ 罪 || 欲 【大】

- 1 善罪即消盡燈炷明者於仏法中智黠明是
- 2 也冥愛欲即為消盡譬如虛空中不生穀実
- 3 也地種乃生穀実耳如是泥洹中不生菩薩
- 4 也糞治其地穀種潤澤生於愛欲中生菩薩
- 5 仏語迦葉譬如広野之中若山上不生蓮華
- 6 及優鉢華也菩薩不於衆阿羅漢辟支仏法
- 7 中出也譬如大陂水淤泥之中生蓮華優鉢
- 8 華也從愛欲中生菩薩法譬如四大海停住菩
- 9 薩於三界功德中潤澤成菩薩道譬如蠹
- 10 虫食芥子空羅漢辟支仏智爾所耳譬如麻
- 11 油破一髮作百分持一分温油麻中為出幾
- 12 所滲羅漢辟支仏智如是如十方空所至菩
- 13 薩曉仏智如是譬如遮迦越羅有千子無有
- 14 一子心遮迦越羅相也雖有爾所子不在子
- 15 計中也有羅漢数千巨億万人不在仏計中
- 16 無一菩薩仏雖有爾所羅漢不具足為仏子
- 17 也譬如遮迦越羅正夫人与貧窮人共交通
- 18 從中生子仏語迦葉是寧応為遮迦越羅子不
- 19 乎迦葉報仏言不也仏言如是迦葉雖有羅
- 20 漢從法中出是非仏子也不類菩薩何以故
- 21 菩薩不断仏法故譬如遮迦越羅与青衣交
- 22 通却後生子具足成遮ま越羅相雖從青衣生
- 23 由為是遮迦越羅子也如是菩薩雖在生死
- 24 中行力少会為仏子譬如遮迦越羅夫人懷
- 25 軀七日会当成遮迦越羅相也諸天皆徹視

(第九紙) T12p191b29~

- 1 見腹中胞胎雖遮迦越羅子多者無遮迦越
- 2 羅相諸天言由不如供養腹中七日子也発
- 3 意菩薩如是有為仏道諸天心念言雖有
- 4 羅漢数千億豪尊不如供養発意菩薩也
- 5 譬如摩尼珠有水精大如須弥山不如一摩

ホ 広ハ 曠ホ 【大】 大正蔵に校注なし。

ホ 淤ハ 汚ホ 【大】

ホ 「蠹？」の右傍に「蠹？」(朱書)あり。

ホ 温ハ 搯ホ 【大】 大正蔵に校注なし。「温」の中央に見せ消ち(朱点)あり、右傍に「搯」(朱書)あり。
ホ 「迦」+【大】 大正蔵に校注なし。「遮」の右下傍に「迦」(朱書)あり。

- 6 尼珠初發意菩薩衆阿羅漢辟支仏所不能
- 7 及也譬如遮迦越羅有少子諸小王傍臣皆
- 8 為作礼初發意菩薩如是諸天釈梵世間人
- 9 龍鬼神皆為作礼譬如大山諸菓草悉出其
- 10 巔亦無有主隨其有病者与諸病皆愈苦
- 11 薩如是持智慧菓愈十方天下人生死老病
- 12 悉等心譬如月初生人皆為作礼月成滿無
- 13 有為作礼者若有信仏者於仏法中菩薩發
- 14 意若有信仏者多為菩薩作礼者何以故從
- 15 菩薩成仏故譬如有智者不捨月為星宿作
- 16 礼也高人如是不捨菩薩為羅漢作礼也譬
- 17 如天上天下共治一水精会不能得摩尼珠
- 18 也一切自守持戒禪三昧智黠羅漢雖衆不
- 19 能坐仏樹下不能作仏也爾時仏語摩訶迦
- 20 葉菩薩学用十方人故菩薩作功德用十方
- 21 人故菩薩作功德不自貢高菩薩常当教十
- 22 方人愈其病何等為愈病姪者以觀為菓
- 23 瞋恚者以等心為菓癡者以十二因縁為菓疑
- 24 不信者以空為菓欲処色処無色処若欲覺
- 25 此者以無相為菓是我所非我所愛欲所念

(第十紙) T12p191c25~

- 1 以無願為菓四顛倒各自有菓何等為各自
- 2 有菓一者有常以無常為菓二者有楽以苦
- 3 為菓三者有言是我所以非我所為菓四者
- 4 有身以觀為菓四意止以身心為念是為菓
- 5 四意断一切惡悉断断是為菓四神足念合
- 6 会成身以空棄為菓五根五力不信懈怠念
- 7 功德為菓七覺意入法黠是為菓外道及不
- 8 信以八道為菓是為各各分別菓仏語迦菓
- 9 若闍浮利若医若医弟子者或医王**最**尊三
- 10 千国土滿其中者或医王滿其中雖有乃爾
- 11 所医王不能愈外道及不信者不知当持何
- 12 等法菓愈也菩薩作是念不持世間菓愈

【断】一【大】大正蔵に校注なし。

最ち最ち【大】大正蔵に校注なし。「最」の中央に見せ消ち(朱点)あり、右傍に「最」(朱書)あり。

- 13 人病也当持仏法薬愈人病何等為仏法薬随
- 14 其因縁黠慧中無我無人無寿無命信空度
- 15 脱空無空聞是不恐不懼持精進推念心何
- 16 等心入姪何等心入瞋怒何等心入癡持過去
- 17 当来今現在心入耶過去為盡復⁴⁷当来⁴⁸至今
- 18 現在無所住也
- 19 仏語迦葉言心無色無視無見仏語迦葉言
- 20 諸仏亦不見心者本無所有無所因也自作
- 21 是因縁自得是死生心遠至而独行心譬如
- 22 流水上生泡沫須臾而滅心譬如天暴雨卒
- 23 来無期愛欲亦如是卒来無期心譬如飛鳥
- 24 獼猴不適止一処也心所因不適止一処也
- 25 譬如画師各⁴⁹賦采⁵⁰心各各異如是随行所為

(第十一紙) T12p192a20~

- 1 譬如王於衆人中為上心於諸功德中無上
- 2 譬如蒼蠅在糞上住自以為淨心亦如是
- 3 入愛欲中自以為淨心譬如怨家擲人着惡道
- 4 中無有期也譬如持灰作城持無常作有常
- 5 譬如持鈎行釣魚得心持非我我所是我所心
- 6 譬如賊所作功德及⁵¹自辱譬如坂上上下下心
- 7 須臾有愛須臾有憎心譬如怨家但伺人便
- 8 心常欲聞香譬如画瓶盛屎有何他奇心喜
- 9 味譬如奴随大夫使心樂对譬如飛蛾自投
- 10 燈火中
- 11 仏語迦葉心索之了不可得雖不可得是為
- 12 無有雖無有因為無所生雖無所生亦無所
- 13 出雖無所出亦無所壞雖無所壞亦無有死
- 14 亦無有生雖無所生無所死本無因縁死生
- 15 雖本無因縁無生亦無願也雖無願亦無所
- 16 持雖無所持是為羅漢藏⁵²是為羅漢藏⁵³無戒⁵⁴

⁴⁷復⁴⁸甫【大】

⁴⁸【末】+【大】 大正蔵に校注なし。「来」の右下傍に「末」(朱書)あり。

⁴⁹【各】+【大】

⁵⁰采⁵¹彩【大】

⁵¹及⁵²反【大】 大正蔵に校注なし。

⁵²蔵⁵³滅【大】 大正蔵の校注には「滅⁵³蔵(聖)*」とある。

⁵³蔵⁵⁴滅【大】

- 17 禁也若死生若計所作罪本了無有是無死
- 18 生是為羅漢藏⁵¹ 羅漢藏⁵² 亦無身行無口行無
- 19 心行是藏⁵³ 無有異也何以故諸經一味故是
- 20 藏⁵⁴ 皆等如虛空是藏⁵⁵ 適無所莫亦無是我所
- 21 亦非⁵⁶ 我所是藏⁵⁷ 諦本無諦是藏⁵⁸ 本淨無愛欲
- 22 之瑕穢也本藏⁵⁹ 離本藏⁶⁰ 是藏⁶¹ 隨次至於泥洹
- 23 是藏⁶² 無盡也本無有生也是藏⁶³ 安隱用至泥
- 24 洹故安隱是藏⁶⁴ 也常藏⁶⁵ 常經無本是藏⁶⁶ 好去
- 25 本無死生仏語迦葉言自求身事莫憂外事

(第十一紙) T12p192b16~

- 1 後当来世比丘輩譬如持塊擲狗狗但逐塊
- 2 不逐人当来比丘亦爾欲於山中空閑之處
- 3 常欲得安隱快樂不肯內自觀身也如是為
- 4 不曉色耳鼻舌身從⁷¹何緣得脱乎從是入城
- 5 乞句⁷² 若至聚邑見色声香味細軟欲得者便
- 6 為墮衰於山中若多少持戒不內觀死則天
- 7 上生從天上下来下生世間從是以後不離三
- 8 惡道仏語迦葉言比丘如狗逐塊人罵亦復
- 9 罵之人擲亦復擲之不制心者亦如是譬如
- 10 調馬師馬有搪突⁷³者当数数教之久後調好
- 11 比丘時時法觀制心調亦不見其惡如是譬

54 戒 || 誠 【大】
 55 藏 || 滅 【大】
 56 藏 || 滅 【大】
 57 藏 || 滅 【大】
 58 藏 || 滅 【大】
 59 藏 || 滅 【大】
 60 【是】 + 【大】

大正藏に校注なし。

大正藏に校注なし。

61 藏 || 滅 【大】
 62 藏 || 滅 【大】
 63 藏 || 滅 【大】
 64 藏 || 滅 【大】
 65 藏 || 滅 【大】
 66 藏 || 滅 【大】
 67 藏 || 滅 【大】
 68 藏 || 滅 【大】
 69 藏 || 滅 【大】
 70 藏 || 滅 【大】
 71 【是】 + 【大】

72 句 || 句 【大】
 搪突 || 蹂躪 【大】

大正藏に校注なし。「句」の中央に見せ消ち（朱点）あり、右傍に「句」（朱書）あり。

- 12 如人病喉咽痛举一身皆为痛人心繫於是
- 13 我所非我所随外道亦如是仏語迦葉言沙
- 14 門有二事随牢獄中一者言是我所二者求
- 15 人欲得供養沙門復有二事縛何謂二事一
- 16 者学外道二者多欲積衣被及袈裟鉢沙門
- 17 復有二事中断何等为二事一者与白衣
- 18 厚善二者見好持戒沙門反憎沙門復有二
- 19 事随垢濁中何謂二事一者常念愛欲二者
- 20 喜交結知友沙門復有二事着何等为二事
- 21 自有過不肯悔及念他人惡沙門復有二事
- 22 随泥犁中何等为二事一者誹謗經道二者
- 23 毀戒沙門復有二事何等为二事一者都犯
- 24 戒二者於法中無所得沙門復有二事悔何
- 25 等为二事一者不応行強被袈裟二者身不

(第十一紙) T12p192c12~

- 1 自持戒持戒比丘反承事沙門復有二事病
- 2 難愈何等为二事一者心邪乱二者人有作
- 3 菩薩道者止断仏語迦葉沙門何故正字沙
- 4 門有四事字為沙門何等為四一者形容被
- 5 服像如沙門二者外如沙門内懷諛諛二者
- 6 求索譱名自貢高四者行不犯真沙門也何
- 7 等为形容被服如沙門者髡頭剃鬚着袈裟
- 8 持鉢心不正不持戒但欲作惡喜学外道是
- 9 為被服如沙門何因外如沙門内懷諛諛者
- 10 安徐而行安徐而出安徐而入外道僞惡於
- 11 山間草屋為廬内無信着我着我所中有困
- 12 苦直信者反自嫉妬何因為求索譱名者諛
- 13 諛持戒令他人称誉諛諛学經令他人称誉

⁷⁴ 及||反【大】 大正蔵に校注なし。「及」の中央に見せ消ち(朱点)あり、右傍に「反」(朱書)あり。

⁷⁵ 被||披【大】

⁷⁶ 諛諛||媮媮【大】 大正蔵の校注には「媮媮||諛諛(聖)*」とある。

⁷⁷ 譱||嘩【大】 大正蔵の校注には「嘩||譱(聖)*」とある。

⁷⁸ 剃||剔【大】

⁷⁹ 諛諛||媮媮【大】

⁸⁰ 困||因【大】 大正蔵に校注なし。

⁸¹ 譱||嘩【大】

⁸² 諛諛||媮媮【大】

⁸³ 諛諛||媮媮【大】

- 14 諛諂84 避85 処令人称誉不自剋責求度脱但有
- 15 諛諂85 何等為行不犯真沙門不惜壽命損身
- 16 何況索婦遺供養者若有比丘守空行常勸
- 17 樂追及悉見諸法淨潔本無瑕穢自作黠明
- 18 不從他人持黠明於仏法亦不着何況常着
- 19 色亦無結者亦無脱者本無不見泥洹亦無
- 20 死生亦無泥洹是為真沙門
- 21 仏語迦葉至誠沙門常当作是念当效86 真沙
- 22 門莫效87 諱88 名諛訛沙門也譬如貧人号名大
- 23 富但得富名無所有也仏語迦葉是人応得
- 24 為有是字不迦葉言不也仏言如是迦葉雖
- 25 有沙門字不行沙門法也亦如貧人自称大

(第十四紙) T12p193a09~

- 1 富譬如人為水所没溺反渴欲死沙門如是
- 2 多諷經高才不去情欲於情欲中渴欲死坐
- 3 入泥犁禽獸薜荔中譬如医滿一具器藥不
- 4 能自愈其病雖多諷經而不持戒譬如人病
- 5 得王家藥不自護坐死雖多諷經而不持戒
- 6 如是譬如摩尼珠墮於屎中雖多諷經而不
- 7 持戒譬如死人着金傅飾不持戒反被袈裟
- 8 像如持戒沙門譬如長者子服飾着新衣着
- 9 新傅飾多諷經持戒好亦如是仏語迦葉有
- 10 四事不持戒像類持戒人何等為四一者若
- 11 有比丘禁戒所説不犯缺也雖有是有着呼
- 12 有人二者若比丘悉知律經着行是我所行
- 13 三者若有比丘着我我所四者常行等心
- 14 等心於人着怖畏於死生是為沙門不持戒
- 15 名持戒仏語迦葉言禁戒無形不着三界何
- 16 因名為戒無吾無我無人無命無意無名無種
- 17 無化無教無有作者無所来无89 所去無制無

⁸⁴ 諛諂84 媮媮【大】 大正蔵の校注の内容「媮媮84 諛諛（聖）*」が正確ではない。

⁸⁵ 避85 僻【大】 大正蔵に校注なし。

⁸⁶ 諛諂86 媮媮【大】

⁸⁷ 效87 効【大】 大正蔵に校注なし。

⁸⁸ 效88 効【大】 大正蔵に校注なし。

⁸⁹ 諱89 嘩【大】

⁹⁰ 无90 無【大】 大正蔵に校注なし。

- 18 滅無身所犯無口所犯無心所犯無世無計
- 19 無世所住亦無有戒亦不無戒亦無所念亦
- 20 無敗壞亦無坐立是故為禁戒矣爾時仏
- 21 説曰戒無瑕穢着也戒者無奢無瞋恚安定
- 22 就泥洹如是為持戒不愛身亦不愛命不樂
- 23 於五道悉曉了人於法於仏法中是故為戒
- 24 適不在中辺止也中辺不着不着縛譬⁹¹如
- 25 空中風是為持戒名及種無所止也人定心無⁹²

(第十五紙) T12p193b05~

- 1 無所着無我想無人想曉是者是為淨持戒
- 2 也不輕於禁戒不自貢高常欲守道持戒如
- 3 是無有能過者離我所想自我及是我所都
- 4 無有是也信於空及仏法行不活⁹³汚於世不
- 5 着於世間從冥入明⁹⁴遍⁹⁵無所因不着於二界
- 6 是為持戒時仏説是經法二万二千諸天人
- 7 及世間人民諸龍鬼神皆得須陀洹道八百
- 8 沙門皆得阿羅漢道五百沙門素皆行守
- 9 意得禪道聞仏説深經皆不解不信便從衆
- 10 坐避易亡去迦葉比丘白仏言是五百守禪比
- 11 丘聞深經不解不信摩⁹⁶何而去仏語迦葉是
- 12 五百守禪比丘信余衆多聞深法教不解不
- 13 信
- 14 仏語迦葉是五百比丘者乃前迦葉仏時
- 15 皆作婆羅門道於迦葉仏所一反⁹⁷聞經道心
- 16 意樂喜即時五百人自説言迦葉⁹⁸所説快乃爾
- 17 五百人得是福祐壽終皆生忉利天上仏言
- 18 五百比丘得是福已後於我法中作沙門今
- 19 聞深經不解不信仏語迦葉言是五百比丘
- 20 持是所聞深經得不墮惡道於今世皆當得
- 21 阿羅漢般泥洹去仏語須菩提言汝行教五

⁹¹ 【如】 - 【大】

⁹² 【無】 - 【大】 大正蔵に校注なし。

⁹³ 活 = 沾 【大】 大正蔵に校注なし。「活」の右傍に「沾」(朱書)あり。

⁹⁴ 遍 = 適 【大】

⁹⁵ 何 = 訶 【大】

⁹⁶ 反 = 返 【大】 大正蔵に校注なし。

⁹⁷ 【仏】 + 【大】

22 百亡去比丘令來還須菩提白仏言是五百
 23 比丘尚不欲聞仏所說何肯隨小羅漢語乎
 24 仏即時化作兩比丘於五百比丘前徐行五
 25 百比丘皆使⁹⁸行及前兩比丘五百比丘問前

(第十六紙) T12p193b29~

1 兩比丘言二賢者欲何至⁹⁹奏⁹⁹兩比丘報言欲
 2 到空閑山中安隱之處自守坐禪不能復憂
 3 余五百人復問言何以故兩比丘復報言仏
 4 所說深經我不信不解也五百人復報言我
 5 亦欲入山止空閑之處快坐禪無人來燒我
 6 我曹亦復聞仏說經不信不樂也兩比丘復
 7 報言是事當共諦議不戲也不爭者是為
 8 比丘法也何因為泥洹身中有我有神有命有
 9 人有意耶當有至泥洹處者耶五百人報言
 10 是身亦無人亦無我亦無命¹⁰⁰亦無意亦無有
 11 行至泥洹處者也兩比丘復報言何等盡當
 12 得泥洹者五百人復報言盡姪盡怒盡癡是
 13 為泥洹兩比丘復問言卿曹姪怒癡悉盡未
 14 五百人復報言亦無內亦無外也兩比丘復
 15 問言賢者當莫着亦莫不着雖不着莫不着
 16 是為泥洹禁戒不在死生亦不在泥洹智點
 17 適等度脫見點亦不在死生亦不在泥洹是
 18 本法空無色亦無所見棄思想棄泥洹想滅
 19 思想痛痒得疾至所有法莫念亦莫不念
 20 滅思想痛痒是為無所為爾時兩比丘說是
 21 經法五百人皆得阿羅漢道五百人屈還至
 22 仏所須菩提問五百人言諸賢者去至何所
 23 從何所來五百人報言仏所說經無所從來
 24 去亦無所至須菩提問五百人誰是汝師者
 25 五百人報言本無有生何因當有出須菩提

(第十七紙) T12p193c25~

⁹⁸ 「使」の右傍に「映」(朱書)あり。

⁹⁹ 奏=湊【大】

¹⁰⁰ 命=名【大】

- 1 復問誰為卿曹說經者五百人報言無五陰
- 2 無四大無六衰是為我師須菩提復問言師
- 3 為汝說何等經五百人復報言無縛亦無放
- 4 須菩提復¹⁰³問言本從何緣守道乎五百人
- 5 報言亦無守亦無有不守須菩提復問言所
- 6 作為当如是五百人復報言亦無有当所作
- 7 如是者須菩提復問言以為除¹⁰⁴伏魔耶五百
- 8 人復報言無有五陰与魔也須菩提復問言
- 9 卿曹当何時般泥洹乎五百人復報言化人
- 10 般泥洹者我爾時亦当復般泥洹須菩提復
- 11 問言誰愈卿者五百人復報言無身無心是
- 12 我師也当愈我須菩提復問言卿曹愛欲盡
- 13 未五百人復報言諸經¹⁰⁵法本盡須菩提復問
- 14 言卿曹已住羅漢地耶五百人復報言亦無
- 15 所取無所放須菩提復問言卿曹死生已断
- 16 耶五百人復報言本断亦無所見須菩提復
- 17 問言卿曹住能於忍地耶五百人復報言一
- 18 切已脱着中去時須菩提問事以所可報五
- 19 百人爾時百二十万人及諸天鬼神龍皆得
- 20 須陀洹道千三百比丘皆得阿羅漢道仏説
- 21 經已比丘比丘尼優婆塞優婆夷諸天世人
- 22 鬼神龍皆歡喜前為仏作礼而去

24 仏¹⁰⁴遺日摩尼宝經一卷¹⁰⁵¹⁰⁶

(第十八紙)

- 1 皇后藤原氏光明子奉為
- 2 尊孝贈正一位太政大臣府君
- 3 尊妣贈從一位橘氏大夫人敬
- 4 写一切經論及律莊嚴既了伏

¹⁰¹ (復)一【大】

¹⁰² 除¹⁰²降【大】 大正藏に校注なし。「除」の中央に見せ消ち(朱点)あり、右傍に「降」(朱書)あり。

¹⁰³ 經¹⁰³緣【大】 大正藏に校注なし。

¹⁰⁴ (説)十【大】

¹⁰⁵ (一卷)一【大】

¹⁰⁶ 尾題部分に印記あり。

5 願憑斯勝因奉資冥助永庇
6 菩提之樹長遊般若之津又
7 願上奉 聖朝恒延福寿下及
8 寮采共盡忠節又光明子自
9 發誓言弘濟沈淪勤除煩障
10 妙窮諸法早契菩提乃至伝灯
11 無窮流布天下聞名持卷獲
12 福消災一切迷方会帰覺路
13 天平十二年五月一日記

24 (後補軸付紙)
23 大正五年十月修理之
22
21
20
19
18
17
16
15
14

帝室博物館総長股野 琢 (花押)

董事奈良帝室博物館長久保田鼎 (花押)